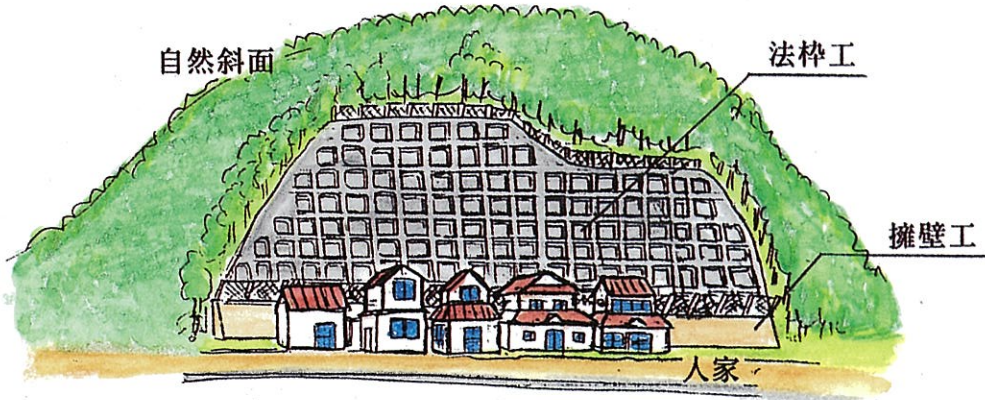


5 急傾斜地崩壊対策施設

5. 1 急傾斜地崩壊対策施設の景観について

●景観構成要素

急傾斜地崩壊対策施設を中心とした山の斜面の景観を構成する要素は、下図に示される。



●景観の特徴

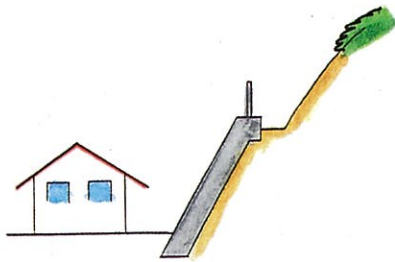
急傾斜地崩壊対策施設を中心とした山の斜面の景観の特徴は次のように示される。

- ・法尻の人家からは、家の背後に接近してコンクリート構造物が迫っている。
- ・遠景から眺めると、山の緑の斜面のなかに大きくコンクリート構造物が広がり、自然景観を阻害している。

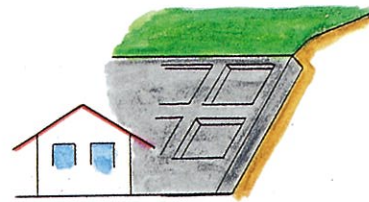
●工法と景観形成上の特徴

コンクリート張り工	斜面をコンクリートで覆うため、非常に圧迫感が大きく、目立ちやすい
法砕工	コンクリート砕で広い面積を覆うため、非常に単調で、目立ちやすく、圧迫感をもつ。砕内を緑化などして景観を和らげることが望まれる。
待ち受け擁壁工	法面を放置して、法尻に擁壁を設置するため、コンクリート張り工に比べると目立ちにくい。
山腹工	山の山腹に設置するため、遠景から目立ちやすく、自然景観と調和しにくい。

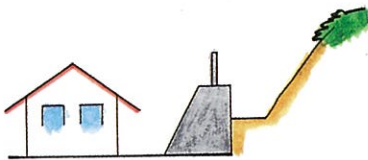
●工法例



コンクリート張り工



法枠工



待ち受け擁壁工



山腹工

5. 2 景観整備の考え方

生命及び財産を守る重要な施設である急傾斜地崩壊対策施設や地すべり防止施設は、周辺の景観に影響を及ぼしやすいため、その整備に当たっては、できる限り周辺の景観への影響を緩和する必要がある。

■整備の考え方

防災機能及び安全性に支障のない範囲内で周辺の景観と調和するよう努めること。

●特性・視点

- ・急傾斜地崩壊対策施設は、住民の生命及び財産を守ることが第一義であるため、安全性や機能性を確保したうえで、周辺景観との調和を配慮する。
- ・自然景観を背景とした人工構造物であるため目立ちやすく、周辺の景観に与える影響は大きいいため、目立ちにくくする工夫が必要である。
- ・人家の背後地で余裕が無く、規模が大きく垂直に近い面として現れるため、圧迫感を感じさせるので、緑化等で圧迫感をやわらげる配慮が必要である。

5. 3 設計等の配慮事項

1. 構造、形態、意匠、素材及び色彩については、できる限り周辺の景観への影響を緩和するよう配慮するとともに、緑化工法の併用に努めること。
2. 周囲の斜面の植生をできる限り保全するよう努めること。

●構造・形態

- ・背景となる自然景観との違和感をやわらげるため、化粧型枠の使用や自然石張などの工夫をする。

●色彩

- ・コンクリートやモルタルなど表面を人工材で処理する場合は、彩度、明度の低い色彩とし、周辺の景観から際立たないよう工夫する。



上の宮神社（大社町）
化粧型枠を使用し、出雲大社の雰囲気を保全



法枠工（大東町）
周辺景観に配慮した着色コンクリート吹きつけ

●緑化

- ・背景となる景観との違和感をやわらげるよう緑化修景する。
- ・法枠の中詰部分に植栽を施す。
- ・モルタル吹付け法面については可能であればツル性植物で覆う。



法枠工（安来市）
法枠内を緑化し、駅周辺の景観に配慮